



「文化の交流が好きなので、交流をつなぐ仕事をしたい」というのが将来の希望。「異なる文化圏から来た人をヘルプしたり、日本でカナダの文化を伝えたい」と考えています。初心者のための町民英会話講座を担当していて、春からまた新たな講座がスタートします。「英会話を習ってみたい」と思っているなら、この春からのスタートも良いタイミング。

東川とカナダを結ぶ絆をもっと作りたいと思っています。「子どもたち同士から始めたい。カナダの独立記念日に合わせてイベントをするとか、フラット・スタンレー交流というのでもいいかも...」。

『フラット・スタンレー』とは、

アメリカ人作家、ジェフ・ブラウンが書いた『ベちゃんこスタンレー』という絵本が原点。小さな紙に自分の分身を描いて封筒に入れ、郵便で各地を旅してもらおうというプロジェクト。受け取った相手は、分身君と一緒にいろいろな体験をし、自分が住んでいる町の話題や写真、手紙をつけて返信します。

外国語指導助手

(ALT)として

カナダから来ているカトリーナ・カイラさんの発案です。すでに町内の小学校で始めているそう。「言葉が分からなくても交流ができます」。

次々と旅をさせて送り主に送り返してもらおうことでお互いの交流が始まり、子どもたちはまだ見ぬ知らない町や国、文化の



お母さん、弟(当時9歳)といっしょに(2012年12月、モントリオール郊外のクロスカントリースキーコースで)

一端を知ることが出来るのです。



「来てすぐに自分の町みたいだと思った。スイスにもカナダにも少し似ている」と大きい自然と山並み、町の雰囲気がお気に入り。ロッキー山脈ふもとのカルガリー、高校時代を過ごした山の町、スイス・ローザンヌと共通する景観が心地良いと感じているよう。

母親の転勤に伴って5カ国で育ちました。2歳までカナダ・モンテリオール、6歳までアメリカ・サンフランシスコ、14歳まで東京、16歳までフランス・パリ、そして18歳まで2年間はスイス・ローザ

ンヌの寄宿学校に。

多文化に接するうち、「日本に戻ってみたい。大人の視点でもう一度日本を訪ね、理解したい」と思ったそうです。

「礼儀正しき、ルールを守ること、お寿司、書道、和太鼓とか伝統的な文化がたくさんあります」と日本の文化が大好きなよう。アジアの文化をさらによく知るため「日本の周辺のアジアの国々にも行きたい」と思っています。

ゾエさん

カナダ・モントリオール市出身、25歳。2016(平成26)年、カナダ・カルガリー大学卒業(東アジア研究)。総務省、外務省、文部科学省、(一財)自治体国際化協会(東京)が実施しているJETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)の国際交流員(CIR)として昨年8月から町教育委員会勤務。カナダ、アメリカ、日本、フランス、スイス5カ国で育ちました。趣味は読書、特にSF小説を読むことと料理を作ること。外国の料理に興味を持っていて、初めての料理は日本人の友達から習ったみそ汁。行ってみたい国はインドと韓国。